

【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画

<p>江田島市立三高小学校</p> <p>【イェナプランを参考にした自立・協働学習】</p> <p>3～6年 総合</p> 	<p>福山市立福山中学校</p> <p>【興味・関心に応じたMY探究】</p> <p>1～3年 総合</p> 						
<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">小学6年 国語</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中学1年 技術</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中学2年 技術</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> </tr> </table>		小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術	
小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術			

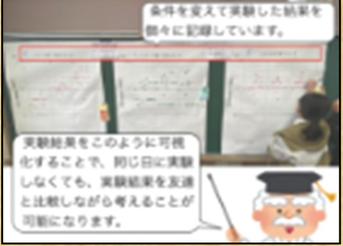
図4-4 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和4年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校 実践事例動画

<p>廿日市市立金剛寺小学校</p> <p>【マイプラン学習】</p> <p>5年 算数</p> 	<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <p>小学6年 中学2年 社会</p> 
<p>廿日市市立宮園小学校</p> <p>【自由進度学習】</p> <p>自由進度学習 Q&A</p> 	

図4-5 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

自由進度学習に関してよくある質問について解説しています！

<p>こんな質問、よく受けています！</p> <p>自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？ その不安で、なかなか進めません。</p> <p>「自立した学び」を育成しようとしている宮園小学校では、子供たちの自己調整力が高まっています。 5年生の姿をご覧ください。</p> 	<p>5年算数「図形の拡大と縮小」資料「植物のからだのつくり方」</p>  <p>実践の時間、資料の活用や学びを学習到達表に基づき自立的に進めています。</p>	<p>条件を変えて実施した結果を即々に記録しています。</p>  <p>実践結果をこのように可視化することで、同じ日に実施しなくても、実践結果を互換と比較しながら考えることが可能になります。</p> 
---	---	--

自由進度学習に関してよくある質問を、廿日市市立宮園小学校の実践を解説した動画を掲載しています。実践してみたいがやり方が分からない、不安があるという方はぜひ御覧ください。

【このような質問に答えています】

- ・自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？
- ・時間内に終わらない子が出てくるのではないですか？
- ・一人一人の学びをどのように見取るのでしょうか？
- ・自由進度学習は、低学年でもできるのでしょうか？

【令和5年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校 実践事例動画

廿日市市立地御前小学校

【自由進度学習】

1年
算数



1年
算数・国語



世羅町立世羅中学校

【単元内自由進度学習】

1年
数学



図4-6 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

小学校第1学年、中学校第1学年の実践を紹介しています！

廿日市市立地御前小学校

【実践事例】「自ら学ぶ力」を育む

20国小学校で実践してきたことを生かして、1年生と一緒に自由進度学習にチャレンジしてみました。

1年生の子供たちが自立して学びを進められるように、丁寧な指導を行いました。

【具体的な学習で】

学習の進捗の把握（自分で進捗管理できる学習用（進捗管理用））
個への支援の充実（自分で進められるワークシートを作成）
学習環境の工夫（繰り返し視聴できるコーナーを設置）

1年 算数「かたちづくり」
国語「まとめてよぶことば」「ことばであそぼう」

個への支援の実践

色紙2枚→4枚とスモールステップで活動を設定しています。ワークシートは、年齢くらの子供たちが自分で学び進めることができるように、難しいポイントに吹き出しを入れる等の工夫をしています。

世羅町立世羅中学校 1年数学

こちらは、球の体積の公式につながる体積コーナーだったのですが、公式につながる生徒が少なかったため、ガイドとなる冊子を追加しました。

小学校第1学年、中学校第1学年の実践を動画でまとめています。「学習計画表」「個への支援」「学習環境」など、取組を充実させるためのポイントについて、実践をもとに解説しています。

「実践してみたが上手くいかない」「どのようなことに注意して実践すればいいの?」といった思いをお持ちの方は、ぜひ御覧ください。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組

本県では、県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った実践を紹介している。

紹介している学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて「深い教材研究」「個の見取り」「個への支援」の三つのポイントを意識した誰一人取り残さないための授業づくりを行っている。

紹介動画では、単元や1単位時間の中で、児童生徒が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還しながら主体的に学ぶ姿を紹介しているので、ぜひ御覧いただきたい。(図5)

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践事例

<p>廿日市市立宮内小学校</p>  <p>https://youtu.be/g_f_3WefdMc</p> <p>特別支援教育の考え方を生かした授業</p>	<p>廿日市市立金剛寺小学校</p>  <p>https://youtu.be/DJkRCgBaVyw</p> <p>マイプラン学習</p>	<p>江田島市立三高小学校</p>  <p>https://youtu.be/75ikMKieEs</p> <p>異学年集団によるワールドオリエンテーション</p>	<p>熊野町立熊野第三小学校</p>  <p>https://youtu.be/Noq2WbGSAHk</p> <p>ポジティブ行動支援の考え方を生かした授業</p>	<p>尾道市立高西中学校</p>  <p>https://youtu.be/jrXDggAK645U</p> <p>自由進度学習</p>
---	--	---	--	---







図5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践事例

廿日市市立宮内小学校

【特別支援教育の考え方を生かした授業】

宮内小学校では、特別支援教育の考え方を通常の学級にも生かすという考え方のもと、個のつまずきを想定し、その要因や背景等から多様な選択肢を用意し、児童が選択しながら学習を進めている。

廿日市市立金剛寺小学校

【マイプラン学習】

金剛寺小学校では、マイプラン学習において、単元の問いやテーマを児童と共有後、児童が個々で解決に向けた学習方法等を選択し、デジタル学習基盤を活用しながら学習を進めている。

江田島市立三高小学校

【異学年集団によるワールドオリエンテーション】

三高小学校では、総合的な学習の時間において、個々が興味関心を抱いた課題別に第3学年から第6学年までによる異学年の縦割りグループをつくり、個々やグループが探究的な思考過程を大切にしながら学習を進めている。

熊野町立熊野第三小学校

【ポジティブ行動支援の考え方を生かした授業】

熊野第三小学校では、本時の目標を具体的な行動で設定し、分かりやすい「インプット」、多様な「アウトプット」、教師や児童同士の肯定的な「フィードバック」の三つが循環することを大事にし、終末には、児童が確認問題等により自分の学びを振り返りながら学習を進めている。

尾道市立高西中学校【自由進度学習】

高西中学校では、自由進度学習において、自立した学習者を育成するために、生徒が学びの羅針盤（学習計画表）を基に自分で作成した学習計画に沿って、学習プリント、学習コーナーなどの多様な選択肢から自分にあった学び方を選択・決定して学習を進めている。

(3) 児童生徒の実態に応じた多様な“選択肢”と“自己決定”を意識した教育活動の推進

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはならない。さらに、不登校等児童生徒については、個々の状況に応じた支援を行うことが必要であり、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。また、支援においては、一斉指導を前提としたカリキュラムだけではなく、児童生徒の実態に応じた多様な選択肢と自己決定の機会の提供を意識した教育活動を推進していくことが必要である。

ア 不登校SSR（スペシャルサポートルーム）推進校における取組

本県においては、令和元年度から学校内にスペシャルサポートルーム（以下「SSR」という。）を設置し、不登校等児童生徒への支援の充実に向けた取組を進めている。

(ア) 組織的な学校体制の構築

不登校SSR推進校（以下「推進校」という。）においては、個々の児童生徒に応じた支援を行うため、中核的な役割を担う不登校等児童生徒支援コーディネーター（以下「支援Co」という。）を校内組織に位置づけ、定期的に不登校等児童生徒支援会議を開催するなど、学校全体で不登校等児童生徒の状況、取組方針、具体的な取組方法等を共有するためのシステムを構築している。

(イ) SSRの設置及び運営等

SSRにおける様々な取組を通して児童生徒に身に付けさせたい力は、右の二つの力であると考えている。児童生徒がこのような力を身に付けていくためには、SSR

が児童生徒にとって安心感があり、自らの意思で取り組むことを決定できるような場所であることが必要である。また、自分の特性を知り、困ったことがあれば相談でき、得意な力を生かし、成長する場となるよう支援を行っている。

推進校における取組内容等

- ア 組織的な学校体制の構築
- イ SSRの設置及び運営等
- ウ SSRにおける成果等の学校全体への普及
- エ 中学校区としての一体的な取組の推進
- オ SSRの周知及び成果等の発信

不登校等児童生徒支援会議（週1回程度）

<メンバー>

管理職、生徒指導主事、支援Co、養護教諭、学級担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等

<協議内容～個別のサポート計画等を基にして～>

- 不登校等児童生徒の状況
- 取組方針や具体的な取組方法等

【SSRで育てたい力】

- 相談する力
- 自分の強みを知り、生かす力

a 安全であり、安心できる居場所とするための環境整備

不登校等児童生徒の心情や特性等に配慮し、学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境、周りの視線を気にすることなく入室できる場所へのSSRの設置や動線の確保、また、SSR内にリラックスできる場を設けるなど登校への嫌悪感を弱めるSSR内の環境整備を目指している。さらに、児童生徒が学習を進めるに当たって、その内容や方法、場所を自分で選択し、決定できるなど、安全であり、安心できる場所となっているか、利用する児童生徒ともに話し合いながらレイアウトを工夫している。

<p>〈学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境づくり〉</p>  <p>ソファを置いたり、机にテーブルクロスをかけたりして学校や教室と違った雰囲気を創り出しています。</p>	<p>〈周りの視線を気にすることなく入室できる動線を確保〉</p>  <p>児童生徒の思いを聞きながら、外階段を利用するなど、周りの視線を気にすることなく入室できる場所へSSRを設置しています。</p>
<p>〈個別の学習と協働での学習の両立が可能なレイアウト〉</p>  <p>個別の学習スペースやグループで学習できる場を整備し、児童生徒が心の状態や学ぶ内容により選択することができますようにしています。</p>	

b 成長していく場としての個別のサポート計画の作成

SSRが「成長していく場」となるために必要となるのは、SSRを利用する児童生徒に対する適切なアセスメントの実施である。個々の状況、そして、その状況に至っている要因を探るとともに、個々の状況等を踏まえた長期目標・短期目標や具体的な手立てを記載した個別サポート計画（図6）を作成している。長期目標・短期目標の設定、具体的な手立ての検討に当たっては、不登校等児童生徒支援会議等において十分に協議するとともに、当該児童生徒及びその保護者に説明し、共通理解を図っている。

	学年・級	氏名	学級担任名（内職者）
児童生徒の状況	状況		
	合理的配慮		
	その他（必要に応じて記入）		
	その他		
本人の意向	保護者の意向		
長期目標	指導の実態		
開始日	短期目標（行動内容）	手立て	評価 （自己、他者、より詳細な評価）

図6 個別のサポート計画（様式例）

c 多様な選択肢の提供と自己決定を意識した教育活動の推進

不登校等児童生徒の学習状況、興味・関心等に応じて、支援Coと学級担任や教科担当教員等とが連携して多様な学びの選択肢を準備するとともに、不登校等児童生徒が学ぶ内容や方法、場所を主体的に選択し、自己決定して学びに向かうよう支援している。SSRでの学習支援においては、児童生徒の興味・関心を生かした学びをきっかけとして、継続した学びにつなげていくこと、自分の強みや苦手なところを意識させたり、他者と学び合う場を設定したりすることで自己理解を図っていくこと、さらに、これらの日々の活動に関しての児童生徒自身が振り返りを行うことで、活動時の自分を客観的にとらえることや教職員からの声かけによって、次の活動への動機付けにつなげていくことなどを大切にしている。

例えば、表中にあるように、「SSR 個展」と題して、児童生徒自身の興味・関心がある「世界の衣装」について調べたまとめや、描いた絵画を展示し、SSRに来室した教職員や他者からの評価を得ることで継続した学びへつなげている。また、「先生お手伝いサービス」という活動の中で、請け負った仕事をやり遂げることや、高校へ進学した先輩から高校生活の様子や中学校時代の思いを聞くことで、自分自身の得意や不得意など自己理解を深めたり、将来への展望を明確にする実践がある。

さらに、SSRという小集団の中において、体験活動等を実施するなど、意図的に児童生徒相互が学び合う機会を設定した取組や日々、児童生徒が自身の活動を振り返り、その振り返りに教職員からのコメントを付すことにより、日々の成長を実感できる取組もある。

(ウ) SSRにおける成果等の学校全体への普及

SSRにおける不登校等児童生徒への支援の考え方や方法等、その成果等については、SSR内での取組に留めることなく、学校全体の全ての児童生徒への支援に生かしていくことが大切である。校内研修等において、校内の全教職員がその趣旨等を十分に理解するとともに、安全・安心な学校風土・学級風土の醸成や個々の児童生徒の多様な学習状況や興味・関心に柔軟に応じた、児童生徒が「学んでみたい」、「分かった・できた」を実感できる授業づくりの推進に生かすことにより、新たな不登校を生じさせない取組の充実につなげていくことが必要である。

(エ) 中学校区としての一体的な取組の推進

不登校SSR推進校における取組は、推進校として指定された学校だけではなく、推進校と同一中学校区内の小中学校等が、校区内連携の充実、中学校区としての支援体制の構築、合同研修会の実施などを通じて、一体となった取組を推進している。

〈児童生徒の興味・関心等を生かした学び〉



自分たちが興味・関心のあることについて、それぞれが調べ、自分なりの工夫をしてみとめました。また、SSR個展として、先生方を招待し、調べたことの発表会を開催しました。教職員から、たくさんの「いいね」の評価をもらいました。

〈自己理解につながる取組〉

「先生お手伝いサービス」

教職員から仕事を募り、請け負った生徒が中心となり、見通しをもって仲間と協力しながら仕事をやり遂げました。



「高校へ進学した先輩（SSR利用）に学ぶ会」

高校に進学した先輩（SSR利用）の話聞き、自分の目標をより明確にしたり、受験や高校生活への不安を解消したりしました。

〈児童生徒相互に学び合う場の設定〉



児童生徒相互が教え合う活動や関わり合い・協力が必要となる体験活動などを取り入れ、相互に認め合うことができるよりよい人間関係を築いています。

また、体験活動における様々な体験を自分が何に興味・関心があるのかに気づき、学びを広げていくきっかけとしています。

〈振り返りと教職員からの声かけ〉

児童生徒の振り返りに学校からコメントを返すことで、達成感を持ち、成長を実感することにつながっています。

教職員からのコメント

振り返りシート	1/10	2/10	3/10	4/10	5/10	6/10	7/10
1日の感想	計算を少し早い にやりました		1/10	2/10	3/10	4/10	5/10
学びから	計算を早くして 1/10	2/10	3/10	4/10	5/10	6/10	7/10

下校時刻を記入

児童生徒自身の振り返り

a 校区内連携の充実

推進校に配置されている支援Coが、校区内の学校に、月1回程度訪問し、中学校区内の不登校等児童生徒への支援及び学級経営や授業改善に向けて支援している。

b 中学校区の支援体制の構築

不登校SSR推進校に設置しているSSRを、校区内の小中学校等の児童生徒が利用できる運用を認めるなど、中学校区で一体的な取組を進めるための支援体制を構築する。

c 合同研修会の実施

学期に1回程度、定期的に中学校区内の学校が合同研修会や連絡会を実施するなどして、推進校の取組の成果等や支援方針等の共有化を図っている。

(オ) SSRの周知及び成果等の発信

SSRを誰もが利用しやすい場所としていく観点から、設置の目的等について、

校内の全教職員や利用する児童生徒・保護者のみならず、全校の児童生徒や保護者、教職員への理解を図っていくことが必要である。また、必要に応じて、中学校区内の児童生徒及び保護者、教職員等にも理解を図っている。

a S S Rの周知

学校だよりやS S R通信、学校ホームページ等を活用した推進校及び関係校の児童生徒及び保護者等への周知、また、長期欠席経験のある新入生及びその保護者に対する入学前や入学直後のS S R見学会、教育相談等の実施などを通して、S S Rの設置の目的等について理解を図っている。

b 取組の成果等の発信

S S Rの設置による不登校等児童生徒への支援の在り方や成果等について、不登校S S R推進校連絡会議、教育センター専門研修講座（学びプラス）、令和7年度「学びの変革」推進のための実践等交流会（マナビノラボ）などにおける実践発表等を通じて県全体への普及を図っている。

イ 県教育支援センター（SCHOOL “S”）による支援

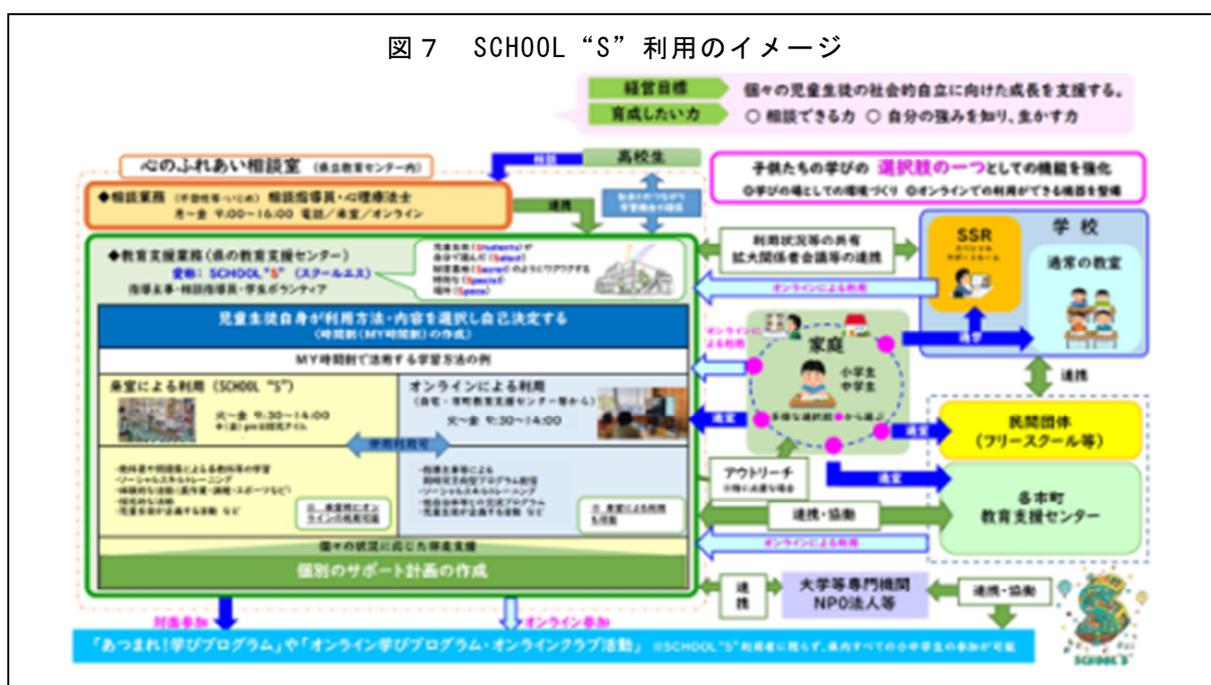
県教育支援センター（以下、「SCHOOL “S”」という。）においては、令和4年度から不登校等児童生徒が社会とつながる多様な居場所、学びの場の選択肢の一つ（図7）として、環境を一新するとともに、これまでの来室による支援に加え、オンラインでつながることができる機器を整備するなど機能を強化した。児童生徒は来室して利用することもできるし、自宅などからオンラインで利用することもでき、また、併用も可能とするなど利用方法も選択できることとしている。

（ア） 支援内容及び方法

SCHOOL “S” では、利用する児童生徒に対して、育成したい力として、「相談できる力」、「自分の強みを知り、生かす力」を設定し、スタッフは、伴走者として、次のような支援を行っている。

- アセスメントの実施
- 個別のサポート計画の作成
- 個別のサポート計画に基づいた個別の支援にかかる相談
- 児童生徒が学びたい内容を踏まえた時間割（MY 時間割）作成
- 児童生徒の目標に向けた振り返りの実施と次の段階の目標設定

	来室による利用	オンラインによる利用
曜日	火～金	
時間	9時30分～14時00分	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書等による各教科等の学習など個々の状況に応じた学習 ○ ソーシャルスキルトレーニング ○ 体験的な活動 (農作業・調理・スポーツなど) ○ 探究的な活動 ○ 児童生徒の企画による活動 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導主事等による同時双方向型プログラム配信 ○ ソーシャルスキルトレーニング ○ 他自治体等との交流プログラム ○ 児童生徒が企画する活動 など



(イ) 活動の実際

来室でもオンラインでも利用する児童生徒と SCHOOL “S” のスタッフが相談しながら、自分の時間割 (MY時間割) (図8) を作成し、自分に合った学びを選んで様々な学習を進めている。

図8 自分の時間割（MY時間割）の例

MY 時間割 ※ 別荘利用の場合の例					
利用方法		来室	オンライン	オンライン	来室
曜日		火	水	木	金
	9:30	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム
1	9:45 10:30	Cタイム	SCHOOL "S" チャンネル	monabiタイム	SST
2	10:45 11:30	個別学習等 (個別・複数)	SCHOOL "S" チャンネル	学プロ・クラブ	個別学習等 (複数)
	12:45	Z&C時間	Z&C時間	Z&C時間	Z&C時間
3	13:00 13:45	個別学習等 (グループ)	学プロ・クラブ	SCHOOL "S" チャンネル	探究タイム
	14:00	ローラータイム	ローラータイム	ローラータイム	ローラータイム

選択・自己決定	
コンテンツ名	内容
おはようタイム	出席状況の確認や健康観察及び1日の過ごし方などを確認する。
こんにはタイム	出席状況の確認や健康観察及び午前中で活動を終了する児童生徒の振り返りを行う。
ジャーネータイム	1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等を確認する。
個別学習等	児童生徒自身が自分で考えた学習や活動(読書、スポーツなど)を行う。
Cタイム (communication)	1週間の予定などを確認し、[MY時間割]を作成する。
SST (Social Skill Training)	ソーシャルスキルトレーニング。 対人関係や集団生活を営みやすくなるための技能(スキル)を養う。
monabiタイム	児童生徒の計画をもとに、個別もしくは集団で学習する。
学プロ・クラブ	学教育委員会が実施するオンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動。興味・関心と同じくする小集団で楽しみながら学びや交流する場を提供する。
SCHOOL "S" チャンネル	リアルタイムオンライン配信プログラム(スタッフはMCを務めます) ※ 全てのコマで配信
探究タイム	職業体験や調理、スポーツなど興味・関心に応じ、探究的な活動を行う。



施設内を探索して植物の観察
(個別学習等)



Sグッズづくり(探究タイム)



S大改造ビフォーアフター
(探究タイム)

(ウ) SCHOOL "S" プログラムの実施

令和6年度より、SCHOOL "S" を利用する児童生徒に対して、体験を通して学んだことと既存の知識や技能とを結び付ける学びの場を提供することで、知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成を目指すことを目的としたSCHOOL "S" プログラムを実施している。令和7年度は年間のテーマを「内なる炎、外なる光を見つめよ」とし、他者から見た自分について、自分ノートにまとめることを通して、自己についての理解を深め、自分の得意を表現する力や適切に相談する力を身に付けることができるようなプログラムを実施した。

図9 SCHOOL "S" プログラム

参加者の声

- ・経済の「中心」だと思ふところに行ってみたら、広島県内の特産品がいろいろ集まっていることに気がきました。
- ・人前で話すことが苦手だと思っていたけど、事実を報告するだけであったり、事前に心の準備ができていたりしたら、少しは話せることに気がきました。

(エ) 学校・市町教育委員会との連携

利用している児童生徒の在籍校や関係市町教育委員会とは、定期的に連携し、生活や学習の様子等について情報共有している。また、利用している児童生徒の在籍校に限らず、県内の教職員を対象とした「SCHOOL “S” オープンスクール」を夏季休業中に開催するなど、様々な見学機会を設けて、SCHOOL “S” における取組の趣旨や内容等についての理解を深め、不登校等児童生徒への支援の在り方について共通理解を図っている。

ウ ひろしま学びプログラムの実施

令和元年度から、不登校等の学校における集団での学習になじめない児童生徒を対象として、「知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成」を目指し、東京大学先端科学技術研究センターと連携した、「東大ROCKET in 広島（令和3年度からは「東大LEARN in 広島」、令和4年度からは「LEARN in 広島」という名称に変更）を実施してきた。令和6年度からは、これまで得た知見をもとに、県教育委員会独自でプログラムを開発することとし、「ひろしま学びプログラム」として、次の3種類のプログラムを実施している。

(ア) あつまれ！学びプログラム

域内の企業や自治体等と連携しながら、体験を通して学んだことと既存の知識や技能とを結び付ける学びの場を提供し、社会とのつながりを促すとともに、知的好奇心を喚起し、学び続ける力の育成を目指したプログラムを実施している。

	テーマ	参加人数	参加者の声
1	川の流ればどんぶらこ、海の波はざぶんざぶん ～川と海がつなぐ物語～ 	10	<ul style="list-style-type: none">○ 一つの川や橋から、いろいろな歴史や物語があるということが分かった。○ 川から海へ私たちの生活の大切なものが生み出されていると感じた。○ 江波から大芝水門まで天満川沿いを歩いて行きました。12本の橋の中で、最も古い橋が広電天満橋で、113年前につくられたことに驚きました。
2	つくる、きわめる、あそぶ ～まるい形のタカラモノ～ 	6	<ul style="list-style-type: none">○ 自分の手で木を丸くすることの難しさや、機械を正確に扱う職人さんの技術のすごさを実感しました。○ 二日目、けん玉の玉や剣は機械で作っていることがわかり、一瞬、1日目にヤスリで必死に丸くしようとしたことが無意味に思えてしまいました。

県教育委員会 HP あつまれ！学びプログラム（旧称：LEARN in 広島）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/learn.html>

(イ) オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動

令和3年7月から、不登校SSR推進校（R3:21校）をオンラインでつなぎ、参加対象として取り組みはじめたものである。図10（令和7年度実施分フライヤー（一部））にあるように様々な機関・企業と協働し、児童生徒の知的好奇心を喚起し、学びの楽しさを感じられるプログラム（オンライン学びプログラム）、同じ興味・関心をもつ児童生徒が集まって、学び合ったり、語り合ったりするプログラム（オンラインクラブ活動）がある。令和4年度からは県内全ての小中学校や教育支援センターから参加できることとし、オンライン学びプログラムは月2～3回、オンラインクラブ活動は月2回程度実施している。（要事前登録※）

また、本県と同様にオンラインを活用した不登校等児童生徒への支援を実施している自治体（福島県・三重県・愛媛県など、以下「連携自治体」）とも連携し、本県が実施しているプログラムに連携自治体の児童生徒が、連携自治体から配信されたプログラムに本県の児童生徒が参加して学び合うこともある。

※「ひろしま学びプログラム（オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動）実施要項（令和7年4月15日通知）参照



図10 オンライン学びプログラム（令和7年度実施分一部）

(ウ) いつでもチャレンジ ～キミたちの挑戦をまっている～

学校や教育支援センターまで来室しなくても、自宅等から視聴し、一人あるいは少人数でも、軽く体を動かしながらチャレンジできるよう、様々な分野のゲストティーチャーに協力いただき、リフティング、ダンス、けん玉の動画（図11）を、県公式YouTubeチャンネルにて配信している。



図11 いつでもチャレンジ動画

エ 不登校等児童生徒サポートハンドブックの作成

不登校等児童生徒だけではなく、全ての児童生徒への充実した支援につなげるためには、児童生徒の心身の状態を丁寧に見極めることが大切である。本サポートブックでは、本県が令和元年度から取組を進めてきた不登校 S S R 推進校や SCHOOL “S” の実践、ひろしま学びプログラム等の実施から得た知見を生かし、効果が高かったと考えられる事例とともに、児童生徒や保護者の相談先や教職員の研修に関する情報を掲載している。

また、児童生徒の「心のエネルギー」※をもとに、学校への登校が難しくなる前兆期から社会や集団の中で活動を始める活動期までの経過を段階的に示し、各段階における児童生徒の状態と支援の方向性を整理しているため、日常の教育相談や学級担任としての対応、校内での情報共有の際に、児童生徒理解と支援における校内の共通の視点として活用することができる。

※ 本サポートブックで示している児童生徒の「心のエネルギー」の変化については、あくまでの一般的な経過を示しており、全ての児童生徒が同じ経過をたどるわけではないことには留意が必要である。

